令和８年度　第１回　郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会　議事録

○開催日　令和８年７月31日（金）　14:00～16:00
○開催場所　史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設
○出席者
(委員)
東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター　教授・センター長　北野　博司
筑波大学　芸術系　教授　黒田　乃生
東北学院大学　文学部歴史学科　教授　永田　英明【委員長】
山形県立米沢女子短期大学　日本史学科　教授　吉田　歓
秋田大学　教育文化学部　名誉教授　渡部　育子【副委員長】
※敬称略・五十音順

(オブザーバー)
宮城県文化財課　保存活用班　技師　大沼柊平

(事務局)
教育局生涯学習部長　庄子希恵
文化財課長　永田健一
文化財課整備活用係長　元山祐一
文化財課調査調整係長　鈴木隆
主査　橋本和悠
主事　須貝慎吾
小岩優日
会職　長島栄一

(報道機関) なし
(傍聴人) なし

○議事(要約)

(1)報告事項　① 史跡仙台郡山官衙遺跡整備基本計画及び基本設計について

事務局　史跡仙台郡山官衙遺跡群整備基本計画及び基本設計について説明。
北野委員　航空レーザー測量ではドローンを活用するのか。
事務局　セスナ機による航空測量を予定している。
北野委員　測量による三次元データは様々な活用が期待できるため、将来的にはガイダンス施設等での活用も視野に入れてほしい。
北野委員　整備スケジュールは短期間で進む計画に見えるが、実現可能性をどのように考えているのか。

事務局　　土地買収が進んでいる箇所から優先的に整備を進める方針である。買収の進捗状況によっては後期事業期間への移行や整備基本計画の見直しも想定している。

(1)報告事項　② 今年度の発掘調査　郡山遺跡について

事務局　　今年度の郡山遺跡発掘調査について説明。

北野委員　　調査区の設定や調査面積はどのように考えているのか。

事務局　　Ⅱ期建物の全容解明、Ⅰ期官衙中枢部との関係把握、石敷の有無の確認を目的として調査を実施する。調査面積は昨年度調査区から100～150㎡程度拡張する予定である。

(2)協議事項　① 今年度の発掘調査　陸奥国分寺について

事務局　　今年度の発掘調査成果について説明。

北野委員　　図2の1区建物跡について、トーン表示された柱穴は検出状況を示すものか。

事務局　　柱穴は検出段階の状況であり、段下げ調査も実施している。

北野委員　　焼土は柱穴、抜き取り穴のどこから確認されたのか。

事務局　　12・13番以外の柱穴では柱痕跡が焼けており、12・13番は抜き取り穴に焼土が確認された。

北野委員　　6番柱穴も抜き取り穴なのか。

事務局　　6番は浅い抜き取り穴があるが、焼失痕跡も確認されている。同様の状況は3番、10番でも認められる。

北野委員　　床張りと判断した根拠は、小型の添え柱や床束によるものか。

事務局　　内側に配置された一回り小さい柱を床を支える柱と考えている。

北野委員　　興味深い建物跡である。

吉田委員　　床張り構造とする場合、異なる高さの空間が存在することになり、解釈には複数の可能性が考えられる。出土遺物はあるのか。

事務局　　8・9番柱穴周辺の竪穴状遺構から平瓦が2点出土している。

渡部委員　　律令国家最盛期の建物跡とする根拠や、同時期の建物が他にも確認されているのか。

事務局　　従来は礎石建物の時期を想定していたが、僧房の下層に掘立柱建物が存在する可能性がある。国分寺・国分尼寺における掘立柱建物の位置付けは今後の研究課題である。

委員長　　これまでの調査成果を見直す視点も必要になる。類例となる事例はあるのか。

事務局　　常陸国分寺などが類例として考えられる。

委員長　　阿波国分寺の類例はどのように評価しているのか。

事務局　　阿波国分寺本堂や関東地方の国分寺の調査例には類似する平面構成がみられる。仏堂風建物や僧房関連施設のほか、国師院の可能性も考えられる。

北野委員　　建物は常陸国分寺のように連続する施設なのか、それとも単独建物なのか。

事務局　　周辺の調査成果から、現時点では単独の建物である可能性が高い。

北野委員　　僧房ではなく単独の仏堂として捉えているのか。

事務局　　仏堂風建物の可能性と、僧房関連施設の可能性の双方を検討している。

吉田委員　　安芸国分寺の墨書土器資料なども参考になる可能性がある。

北野委員　　床張り部分は土間より一段高い構造と考えられるのか。
事務局　　床を支える柱の配置が確認できておらず、構造は未解明である。類例も少なく、今後の検討課題である。
北野委員　　庇と解釈した柱穴は建物本体を支える規模ではないのか。
事務局　　柱間が広く、本体荷重を支える柱とは考えにくい。
北野委員　　検出面は大きく削平されているのか。
事務局　　床束などの痕跡は確認できていないが、小規模な柱は失われている可能性がある。
北野委員　　未調査部分を含めた北側の状況も確認したい。
事務局　　今回確認された建物を起点として周辺調査を進めることで、伽藍北側の様相解明につながると考えている。
吉田委員　　柱穴の深さはどの程度か。
事務局　　深さはおおむね1m弱である。
北野委員　　北限で確認された新旧2時期の溝の年代は特定できたのか。
事務局　　厳密な時期の特定には至っていないが、新しい段階は9～10 世紀に及ぶ可能性がある。
渡部委員　　掘立柱建物の存在は興味深い。
事務局　　北部地区や尼寺地区の整備に向け、掘立柱建物の有無を確認するため発掘調査を進めている。
渡部委員　　掘立柱建物はどこまで遡る可能性があるのか。
事務局　　礎石建物への転換時期との関係を含めて検討する必要がある。
北野委員　　焼失した柱材が残存していれば年代測定等に活用できる可能性がある。
事務局　　今後の調査で炭化材や柱材の有無を確認したい。